

三豊・観音寺支部 活動報告

1 研究主題

生き抜く力を育むためのメディア教育の在り方
～さまざまなメディアの有効活用を通して～

2 研究主題について

平成20年1月の中央教育審議会答申においては、「社会の変化への対応の観点から教科を横断して改善すべき事項」の一つとして情報教育が挙げられているとともに「効果的・効率的な教育を行うことにより確かな学力を確立するとともに情報活用能力など社会の変化に対応するための子どもの力をはぐくむため、教育の情報化が重要である」などの提言がなされた。これらを踏まえ、新学習指導要領において、情報教育、及び教科指導におけるICT活用について充実が図られた。情報教育及びICT活用の充実等については、今回の学習指導要領の改訂において重視している事項との関係においても、「基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学習に取り組む態度を養うためには、児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用できるようにすることが重要である。また、教師がこれらの情報手段や視聴覚教材、教育機器などの教材・教具を適切に活用することが重要である」とされている。

こうした考え方にに基づき、各教科の指導にあたり、「情報教育」及び「教科指導におけるICT活用」の充実について、次の3点が提言されている。

① 生徒が情報モラルを身に付ける。

② コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるようにするための学習活動を充実する。

③ これらの情報手段に加え視聴覚機器や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図る。

これらの提言に則り、メディアの有効活用を通して学習の効率化を図るとともに、生徒の学習欲の向上を目指して、上記の主題を設定した。

3 研究計画

(1) 4月21日 部長・理事一斉研修会

場所

内容 研究主題、研究組織

行事計画作成

(2) 6月25日 第1回理事・主任研修会

場所 三豊市 豊中町保健センター

内容 年間計画、研究内容の検討

(3) 8月20日 夏季研修会（香中研）

場所 eーとぴあ・かがわ

内容 実践発表（さぬき・東かがわ支部）

講話、実技研修

(4) 1月22日 第2回理事・主任研修会

場所 三豊市 豊中町保健センター

内容 本年度の反省と評価

研究のまとめ

4 実践事例

(1) 教科での実践

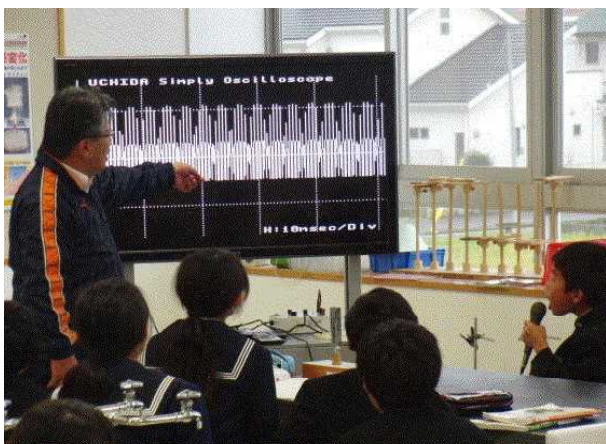
① 理科

・ 天体シュミレータ「Mitaka Plus」の利用



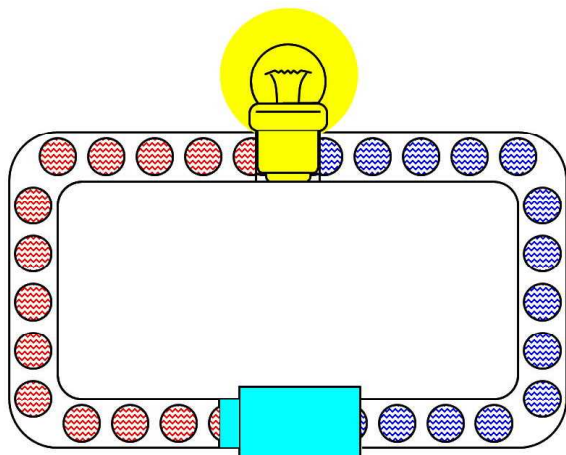
星座の1日の動きや1年間の動きを天体シュミレータで見せることによって、イメージすることが難しい天体の1日の動きや季節の変化を視覚的にわかりやすく表すことができ、生徒の理解を深めることができた。

- ・ 音の波形のグラフ化



マイクを使って取り入れた音の波形をグラフで表すことで生徒の意欲・関心を高めることができた。

- ・ アニメーション画像の利用



自作のアニメーション画像を利用することで、実際には見ることはできない電流の流れのモデルを動画として見ることで、電流のイメージをつかむのに役立った。

- ・ デジタル教科書の活用



生徒が自分の教科書と見比べながらアンダーラインを引いたり、図版の動画を見せたりすることで、興味を持って授業に取り組みむことができた。特に惑星の運動など、捉えにくい内容を動画で見ることで、視覚的に理解を深めることができた。

- ・ 教材提示装置の利用

教材提示装置を使って教科書やノート、



ワークシートや教材などを大きなスクリーンに映し出すことにより、生徒にもわかりやすく指示を出したり、説明したりすることができた。また、生徒の夏休みの自由研究を提示させて一人一人発表させることに

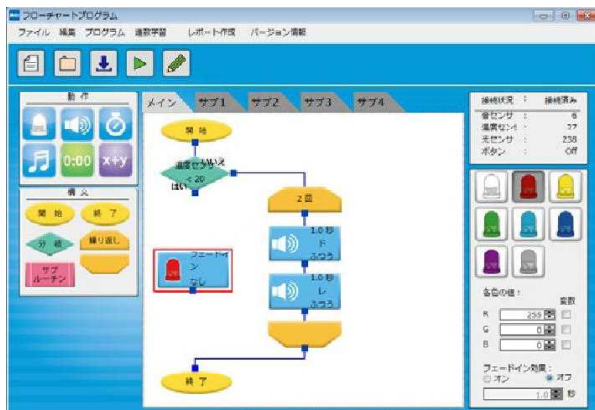
よって、友だちの発表を興味・関心を持って聞くことができ、より具体的な評価をすることができた。

- DVD教材やNHK教材の利用

市販のDVD教材および、NHKの「10minボックス」や「マイクロワールド」などの番組を録画したものを利用することで、学校では実験・観察しにくいものもわかりやすく見せることができたり、短い時間で学習を振り返ることができた。また、授業前の休憩時間から流すことにより、早く教室移動してくるようになり、落ち着いた雰囲気ですぐに授業に取り組むことができるようになった。

- ② 技術・家庭科

- 制御学習用教材



計測と制御の学習において、プログラミングソフトを使ってLED・ブザー・メロディなどの動作の制御を行った。フローチャートを使ったプログラミングで視覚的に命令の流れを捉えやすいので、プログラミングの基礎を分かりやすく学ぶことができた。

- ③ 英語

- プレゼンテーションソフトの利用

プレゼンテーションソフトを使って写真や映像を見せることで、視覚的に分かりや

すく外国の文化や学校の様子を伝えることができ、生徒の理解を深めることができた。



- (2) 教科外での実践

- ① 人権・同和教育

- 人権についてのビデオ視聴

ビデオを見ることで、生徒は内容をより身近に感じることができ、登場人物の考え方や感じ方に共感することができた。

- ② 学級活動や総合学習



- インターネットの利用（職業調べ）

自分たちの興味がある職業について、インターネットを使って調べることで、より詳しく仕事の内容や特徴について理解することができた。

- DVD教材の活用（職業について）

NHKのDVD「あしたをつかめ〜平成若者仕事図鑑〜」等を視聴し、様々な仕事の特徴や魅力について学ぶことができた。

- ・ プレゼンテーションソフトの活用（職場体験発表会）



生徒たちの働く様子の写真を編集し、プロジェクターで拡大し、映し出すことで、分かりやすく説明・報告を行うことができた。

- ・ デジカメの活用（職場体験学習まとめ）
まとめを行うときに、デジカメで撮った写真をプリントアウトしたものを使い、文章をワープロソフトでまとめることで、活動のようすを分かりやすくまとめることができた。

③ 学校行事や生徒会活動

- ・ プレゼンテーションソフトの活用

学年目標や学校の様子、生徒会の活動内容や全校生への呼びかけ、前年度の合唱コンクールの映像などを、プレゼンテーションソフトを使って視覚的に見せることによ



り、生徒に分かりやすく説明することができ、意欲や関心を高め、しっかりと考えさせることができた。

5 成果と課題

各教科の授業だけでなく、総合学習や特別活動、道徳、部活動などさまざまな活動の場面で、効果的にメディア教材や視聴覚機器を取り入れることにより、生徒の意欲・関心を高めることができ、理解や思考をより深めることができる。また生徒も、最近は周りに多くのメディア機器や環境があるため、比較的スムーズにそれらを操作し、活動に取り入れることができるものが多い。このような状況で、今後の課題として挙げられるのは、引き続き以下の点である。

- ① 視聴覚的な教育法に用いられる教育機器の操作の習熟
- ② 生徒を引きつけるメディア教材の精選・選択
- ③ 短時間で準備できる視聴覚機器の整備
- ④ 情報モラルについての啓発活動（保護者も含めて）

これらの課題を解決していくために、校内研修などを利用してメディア教育に対する知識及び、機器の操作技術の研修を行うとともに、授業など日々の活動の中で、教師が積極的に取り入れていくことが重要である。また、さらにすべての学校へのデジタル教科書やタブレットPCの導入とそのインターネット接続環境の整備はもちろん、電子黒板等のディスプレイの各教室の配置など、近年、急速に進歩しているハード面のさらなる整備と充実が急務であると考えます。